



月刊「ワークホームだより」3月号

発行:2025年2月21日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

現場が輝いてこそ、崇高な理念や素晴らしい建物も価値を持つ

副施設長 亀山 隆幸

タイトルは三原理事長があかりの家施設長時代に20年以上に渡り、毎年4月1日に職員に向けた「共通確認」にある言葉です。進むべき方向の示唆であり、立ち返る原点でもあります。

2/13(木)、京都府知的障害者福祉協会 生産・就労部会の見学で約18名の方が来所されました。

改めて、自分たちのモットーを考える機会となりました。

ワークホーム高砂の思い

働くことを通して、社会とのつながりを深めたい！

病院や高齢者施設のリネンやタオル等のクリーニング作業を通して、社会インフラを支える誇りある仕事をしています。

ワークへ行けば働く仲間がいる。毎日通うことが楽しい！働くことが楽しい！



問題提起したいのは、＜誇り＞という言葉です。これは周りから「誇りをもって！」と言われて持てるものではなく、自分たちの中で見出されてこそ、湧いてくるものだと思います。以下は、私なりに感じる＜誇り＞です。

1. 社会とつながる

ある保護者の方から、「うちの子が仕事をさせてもらえて嬉しい」とお聞きしたことがあります。その商品を必要とされる病院等に、“うちの子”がたたまれた商品を通して社会とつながる。

また、ゴトウ・アズ・プランニングの従業員の方が洗濯や搬入出で出入りされる光景が日常的にあります。こういった外部の方の出入りも、社会に開かれた事業所として大事な要素です。

2. 仕事と休憩のメリハリ

「ワークへ行けば働く仲間がいる。毎日通うことが楽しい！働くことが楽しい！」は開設20年前から変わらない光景です。休憩はワイワイしてても、終了時間になると「仕事～！」と利用者が声をあげて1Fに降りていく姿に、障害の有無は関係ありません。

3. 自閉症総合援助センターを標榜する法人として担う就労支援部門

私がいた15年前と比べて、シーツ班に占める自閉症の方の割合は格段に増えています。

イーザーフォークにシーツをかける工程が魅力的なようです。「フォークが目の前に降りてくる」＝「フックに引っかけてよ」の機械からの指示とも言えます。

また、自分でリズム維持をするのが困難な方にとって、定期的に降りてくるフォークは「メトロノーム的な支えをしてくれている」と楠課長は言っていました。私もそう思います。



3月1日(土) いちご狩り



3月12日(水) 工賃支給日

3月22日(土) 一年を振り返る会

京都府生産活動・就労支援部会見学会



2月13日(木)に京都府の生産就労部会の皆様18名が施設見学でワークホーム高砂並びに納豆工房なつとこちゃんを訪れて下さいました。各1時間という短い時間ではありましたが、事業所説明・現場見学を行ないました。現場見学ではクリーニング作業という大きな括りの中に複数の商品があり、段階的にスモールステップが刻めること。個人の特性に合った作業を選べるという事を説明しました。こうして遠方から見学に来てくださることは我々にとって、とても励みになりますし、何より作業に真剣に取り組む利用者さんの表情を外部の方に見ていただけるのは、作業を中心に活動してきたワークホーム高砂としての誇りに感じました。

今後も利用者さんの真剣な眼差しを外部の人達に是非見て頂きたいと思っています。(楠)



今月の担当は、重田でした



ブラッシング指導



2月7日(金)加古川歯科保健センターの歯科衛生士さんに来ていただきブラッシング指導をしていただきました。染め出しでの磨き残しチェックや、歯ブラシの使い方などを実践的に学びました。普段から歯磨きはしていますが、磨き残しがどこにあるかわかりにくいですね😊

お知らせしました指導結果には、衛生士さんから丁寧なコメントをいただいていますのでご確認ください。

ワークホーム高砂では来年度よりブラッシング指導を年2回実施する予定です。正しい歯の磨き方を学び、歯と口の健康を守って欲しいと思います。(山本)



ノロウイルスに要注意



ノロウイルスの感染経路と予防方法は？

寒い季節はノロウイルスによる食中毒が増えます。ノロウイルスは少量でも手や指、食品などを介して口から入ると体の中で増殖し、腹痛やおう吐、下痢などの症状を引き起こします。普段から感染しないよう、丁寧な手洗いや日々の健康管理を心がけましょう◎ (山本)

事業報告会



2月11日(火)兵庫県強度行動障害地域生活支援事業報告会に長谷川施設長、亀山副施設長、重田で参加してきました。兵庫県強度行動障害地域生活支援事業は、緊急性のある強度行動障害者を一定期間集中支援し、再度地域生活を送ることができる仕組みを構築することを目的に、令和元年度より兵庫県から社会福祉法人あかりの家が委託を受け、取り組んできた事業です。

今回の報告を同法人他事業所の立場から聞かせていただき、とても大きな刺激になりました。具体的なケースと取り組みの報告を聞き、そこまでするんだという驚きがありました。利用者さんだけでなく、ご家族にも寄り添い、一緒に乗り越えるという姿勢から自閉症の方の人生を応援したいという熱い思いがひしひしと伝わってきました。また、「チーム支援」という言葉が何度も言われていたのが印象的でした。重いケースを少人数で抱えるのではなく、一つのチームとして支えあいながら、みんなで向き合っていることに支援員の誇りを感じました。(重田)



企業説明会に参加しました

2月13日(木)社会福祉法人あかりの家として兵庫大学で開催された企業説明会に参加してきました。約10の企業と50名の学生が参加され、あかりのブースには9人の社会福祉学科と栄養マネジメント学科の学生さんが来られました。みなさんニコニコと笑顔で聞きながら説明を聞かれていたのが印象的でした。口頭での説明では伝わりきらないと思うので今後の見学やインターンに繋がればいいと思います。(重田)



工賃向上研修に参加しました



2月7日(金)にリモートにて工賃向上研修に花岡が参加しました。兵庫県の平均工賃に比べ、ワークホームの平均工賃は非常に高かったです。工賃を上げていく為に職員は何をするべきなのか？現状を把握し、事業・支援計画を考え、実践することが大事だということが分かりました。現状に満足せず、更なるワークホームの工賃向上に向けて事業所全体で共有し、取り組んでいこうと思いました。(花岡)